

# 9/2 岡谷市防災訓練

もしも…のときに備えて  
地区の防災訓練に  
参加しましょう！



## 9月2日(日)の防災訓練は西堀区をモデル地区として、 地区分散型で実施します

大地震などの災害が起こった時、どのような行動をとればいいのでしょうか？東海地震や糸魚川—静岡構造線等の危険性が叫ばれるなか、災害はいつどこで起こるかわかりません。

今年も近県で、3月には能登半島地震、7月には中越沖地震が発生し、尊い命が奪われ、今なお、大勢の被災者が不自由な生活を強いられています。

昨年の7月豪雨災害の教訓を無駄にすることなく、災害が起きた時に何をすべきか？日頃からどのような備えをしておかなければならないかを訓練により身につけていきましょう。

9月2日(日)を中心に、各区で防災訓練が実施されますので、この機会に防災訓練に参加し、身近な避難場所を確認したり、実際に防災活動を体験し、防災意識を高めましょう。

### モデル地区（西堀区）

日時 9月2日(日)

・午前7時～

防災行政無線により東海地震注意情報（訓練）の放送

・午前7時30分～

地震発生（訓練）のサイレンおよび放送を行います

場所 西堀区（八幡社境内）

内容 情報収集・受理・伝達訓練、災害対策本部設置訓練、避難誘導訓練、要援護者避難誘導訓練、交通整理訓練、救出訓練、救急救護訓練、初期消火訓練、放水訓練、防犯指導訓練、炊き出し訓練



### 防災無線により訓練の放送が流れ サイレンを吹鳴します

防災訓練の9月2日（日）は、午前7時から数回訓練の放送が流れ、7時30分にはサイレンを吹鳴しますので、災害と間違えないようにしてください。



### 各区の訓練は？

各区の防災訓練は、自主防災会が主体となって行なわれますが、区により開催日が異なることがありますので、区から配布される訓練案内に基づいて参加しましょう。

問合せ 危機管理室（内線1591）

# 環境保全の率先実行計画取り組み状況



私たちをとりまく環境問題は、水質汚濁や地下水汚染、ごみ問題など身近な問題から、地球温暖化やオゾン層破壊などの地球環境問題、さらにダイオキシン類などの有害化学物質問題など、複雑化・多様化しています。

こうした環境問題を改善するため、大量生産、大量消費、大量廃棄型の生活を見直して、省エネルギーやごみ減量を推進し、循環型社会へと転換を図っていくことが求められています。

## 【岡谷市役所の取り組み】

岡谷市役所では、環境保全に率先して取り組んでいくため、平成13年度から「環境保全の率先実行計画」をスタートし、さらなる取組の充実強化のため平成18年度に見直しを行いました。

環境への負荷を少なくするため、環境にやさしい製品の購入、省エネルギー、ごみの発生抑制などについて、具体的な取組み項目を示し、できる限り数値目標を設定しています。以下に平成18年度の状況を掲載します。

## 温室効果ガスの排出量

＜温室効果ガスとは＞

地球は生物が生きやすい様に気温を保つ温室効果ガス（二酸化炭素等）に覆われています。ところが最近、電気・ガス・ガソリンなどの急激な大量消費により、温室効果ガスが増えたため、地球の気温が上昇しています。地球温暖化がこのまま進むと、洪水や土壌汚染、農作物の減少、渇水、伝染病の流行など被害は深刻です。

### ☆岡谷市役所の温室効果ガス排出量

	18年度実績	基準年度実績	削減目標
市庁舎	705.7 t 削減目標達成	741.1 t	2%
出先機関等(支所、図書館、博物館)	172.1 t 削減目標達成	178.5 t	1%

## 具体的な取組み状況

### ☆用紙類等の使用

- 再生紙の積極的な利用、両面印刷や裏紙利用の促進、電子メール等の有効利用による用紙使用の削減

[コピー用紙購入枚数 庁舎：12.5%増、出先機関等：23.8%減]

※基準年度となる17年度を100%とした場合の比較増減 以下〔 〕内も同様です

### ☆省エネルギー・省資源のために

- 昼休み、残業時、離席時など不要な照明の消灯、廊下の照明間引き点灯や、職員のエレベーター使用の自粛

[電気使用量 庁舎：2.7%減、出先機関等：2.2%増]

- 庁舎冷暖房は、夏は28度、冬は20度に温度設定。夏はノーネクタイ、冬は重ね着による温度調整の推進

[灯油・重油使用量 庁舎：29.9%減、出先機関等：10.8%減]

### ☆水道使用

- 公用車洗車時や茶器洗浄時に水の流し放しをしないなどの節水

[庁舎：4.2%増、出先機関等：7.5%減]

### ☆ごみ減量とリサイクル

- ごみ出し状況のチェック等ごみ減量、分別回収ボックス等による分別排出の徹底
- 小中学校から出た生ごみのリサイクル事業の実施



## まとめ

率先実行計画の取り組みについて、職員の意識改革も進んでいます。天候に左右される要素はあるものの、温室効果ガス排出量、灯油・重油使用量、ガス使用量、庁舎電気使用量は、平成13年度の計画開始以来最低値でありました。今後も全施設で温室効果ガスをさらに削減するよう引き続き計画の推進に努めます。

詳しくは、環境安全課（内線1166）